

さくら

やさしく かしく たくましく 笑顔かがやく城西の子

学校だより

R4. 3. 8

宇都宮市立城山西小学校 市川 文人



希望をもち続けながら

朝晩の寒暖差はありますが、日中の暖かな陽気が春の訪れを感じさせてくれます。そんな中、学校では、「栃木県におけるまん延防止等重点措置」の延長(～3/21まで)に伴い、短縮日課の継続や予定されていた行事の中止等、児童の安全・安心を確保するための対応を余儀なくされています。

特に、「孝子桜まつり」の中止は、実行委員の皆様と何度も協議を重ねた上での苦渋の決断であり、3年ぶりの開催を楽しみにしておられた皆様の期待に応えられなかったことを、大変、心苦しく思っております。「子供たちの発表の場として、イベントだけでも何とか開催させてあげたい。」との思いから、今日まで前向きに準備を進めてくださった地域の皆様、PTAの皆様、誠にありがとうございました。

「孝子桜まつり」当日に予定していた児童の発表の代替につきましては、可能な範囲で実現させたいと考え、以下の形式に変更して実施することにいたしました。



「桜まつり」の際、来場者の動線として設置する予定だった107個のプランターには、子供たちが植え付けたパンジーがきれいに咲いています。

中止になった今も、毎日丁寧に世話をしています。

【代替の実施内容】

① 「劇団 古賀志のこ」による劇「さくらがさいた日」の上演

→ 録画し、TV放送により各教室で上映する。

② 箏の演奏

→ 6年生が、「孝子桜」の前で、下級生のために「桜」を演奏する。(「とちテレ」の取材が入る予定)

☆ 日 時…令和4年3月10日(木) 5校時後半(13:55頃～) ※ 雨天順延

☆ 参観者…1～5年児童、6年保護者

☆ 趣 旨…「下級生に『箏』の伝統を引き継ぎたい。また、孝子桜の前で箏を演奏している姿を見たことがない1・2年生に、ぜひ見てもらいたい。」との、6年生の思いから。

コロナ禍にあっても子供たちのためできることは何かを問い、常に「次の一手」を考え、実現し、希望をもち続けながら前進して参ります。皆様のご理解とご協力を、何卒よろしくお願いいたします。

縄跳びチャンピオン大会

2月16日(水)、低・中・高学年ブロックごとに「縄跳びチャンピオン大会」を行いました。本番に向け、子供たちは、「縄跳び検定表」を見ながら新しい技に挑戦したり、タブレットを使って動画を撮り技の出来ばえをチェックしたりと、日々目標に向かって工夫しながら練習に励んでいました。



白熱の対戦！

いざ大会が始まると、息を切らしながら粘りに粘って跳び続ける児童や後ろ二重跳びの大技でもスイスイ跳んでしまう児童など様々でしたが、どの姿にも清々しさを感じました。

また、見守る児童も、「がんばれ！」「負けるな！」との思いを込め、真剣な表情でした。

大会でチャンピオンに輝いた児童を褒め称えとともに、思い通りの結果が残せなかった児童も当日を迎えるまでの努力と身についた技を認め、称えていきたいと思っています。



運動委員が司会・進行

6年生を送る会

2月24日(木)、「6年生を送る会」が開かれました。

今年も全校で集まることはできませんでしたが、各教室に6年生を迎え、温かい雰囲気の中で会が進行していきました。各学年からのビデオメッセージや手作りのプレゼント(オリジナル下敷)の贈呈等、一つ一つに下級生の真心が込められていました。また、6年生一人一人の「お礼のあいさつ」も立派でした。

校長の話では、6年生が選んだ自分自身の「今年の漢字一字」を紹介しながら、6年生の最高学年としての活躍を称えました。(以下、一部抜粋)

これ(右に示した漢字)が、6年生16人それぞれの、この一年間を表す漢字一字です。何となくまいい一字一字でしょう。

夢を抱き、友情を育み、思いっきり運動し、支えてくれる人に感謝し、学ぶことで自分を成長させ、荒波にぶつかり乗り越え、最高学年の自覚をもち、力いっぱい努力し、最後の学校生活を思う存分楽しみ、自分を変えることができ、様々なことを学び、学問を修め、地域合同運動会で負けた悔しさを経験し、200冊以上の本を読み、堂々の銀メダルを手に入れ、目標を決め挑戦続けた日々。この一字に、一人一人の「思い」と「努力」が凝縮されています。



オリジナル下敷きの贈呈

夢	友	運	感
学	波	最	力
楽	変	学	修
負	本	銀	挑



元気に縦割り班遊び

この会の企画・準備と当日の運営は、5年生が中心となって行いました。周到な準備とリーダーシップを発揮しながら円滑に会を進める5年生の姿に、「伝統のバトン」を受け継ぐ自覚が感じられ、頼もしく思いました。

終了後には、縦割り班ごとに校庭で元気いっぱい遊び、「城西の兄弟たち」は、また一つ6年生との大切な思い出を心に刻みました。

平和への願い

先日、阿部心美さんと新井香音さんが校長室を訪ね、「今、苦しんでいるウクライナの人たちのために募金などの支援をしたいのですが、学校で何かできませんか。」と、私に問いました。二人の眼差しはとても真剣で、その思いを形にしたいと考えた私は、早速、担任に伝え、まずは6年生の中で話し合ってもらいました。すると、子供たちからは、「ぜひ募金に参加したいです。」「募金に賛成だけど、武器の購入資金にならないように募金先を見極めたいです。」「手紙を書きたいです。」「寄せ書きをしてウクライナの人たちを励ましたいです。」など、活発な意見が出されました。

そして、話し合いの結果、全校児童に呼び掛け、「Pray for Ukraine」の寄せ書きでウクライナの人たちを励ますことになりました。

二人の「今、私たちにできることは何か」の問いから始まった今回の活動。皆の平和への願いを形に変え、支援の輪を広げていきたいと思います。



ざぶん SDGs 大賞展

未来を創る子供たちが取り組んでいるSDGsの活動を募集し、特に積極的に取り組んでいる団体を表彰する「第1回ざぶんSDGs大賞展」が開かれました。この企画展は、本校の文化人の先生である林香君先生が中心となり開催されました。

応募対象は、「中・高校生、一般」であったため、地域の取組として「古賀志山清掃登山」を取り上げ、応募しました。応募内容は、30年以上の伝統ある清掃登山活動の紹介や卒業生の松井翼さん(城山中1年)からのメッセージを掲載しました。その結果、学校と保護者、地域が一体となって取り組んできた保全活動が、地域に根差した「SDGsテーマ15:陸の豊かさを守ろう」の取組として高く評価され、「ざぶん環境SDGs賞」を受賞しました。また、企画展には全校児童の「マイ皿」も展示され、好評を博しました。

ご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。応募作品や賞状等は、本校の玄関(入って右側)に展示してありますので、機会がございましたらお立ち寄りください。

